

令和 7 年度  
文京区基本構想推進区民協議会  
基本政策 2 「健康で安心な生活基盤の整備」  
第 2 回

日時：令和 7 年 1 1 月 5 日（水）

1 8 時 3 0 分～2 0 時 1 5 分

場所：シビックセンター 2 4 階

区議会第二委員会室

文京区企画政策部企画課

## 第2回 文京区基本構想推進区民協議会 会議録

「委員」	会	長	辻	琢也
	委	員	柴崎	清恵
	委	員	白土	正介
	委	員	石樵	さゆり
	委	員	栗原	孝子
	委	員	武長	信亮
	委	員	高岡	正
	委	員	牧野	美代子

「幹事」	福祉部長	鈴木裕佳
	保健衛生部長	矢内真理子
	企画政策部企画課長	川崎慎一郎

「関係課長」	障害福祉課長	永尾真一
	生活福祉課長	坂田賢司
	生活衛生課長	中島一浩
	健康推進課長	大武保昭
	予防対策課長	小島絵里
	保健対策担当課長	市川健一郎
	保健サービスセンター所長	大塚仁雄

○**社会長** それでは、定刻になりましたので、本日の部会を開催します。

本日は、基本政策2「健康で安心な生活基盤の整備」の部会の2回目となります。

最初に、委員の出欠状況や配付資料等につきまして、事務局から説明をお願いします。

○**川崎企画課長** 本日、事務局を務めさせていただきます、企画課長の川崎と申します。よろしくお願ひいたします。

それでは、初めに委員の出欠状況でございます。本日の出席予定の委員の皆様は全員出席いただいております。

次に、幹事の出席でございます。協議会に出席する幹事につきましては、本日の審議に関係のある部長でございます。本日は2名でございます。

鈴木福祉部長でございます。

○**鈴木福祉部長** 福祉部長、鈴木です。よろしくお願ひいたします。

○**川崎企画課長** 矢内保健衛生部長でございます。

○**矢内保健衛生部長** 保健衛生部長の矢内でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○**川崎企画課長** そのほかに関係する課長も出席をしております。

次に、資料確認をお願ひいたします。

本日、机上に配付させていただいておりますのが2件です。次第と座席表でございます。

このほか、本日使用する資料といたしまして、事前にお送りしております、こちらのオレンジ色の総合戦略の冊子、また、ホチキス留めで分厚いこちらの戦略点検シートの冊子、こちらの2点を使用してまいりますので、よろしくお願ひいたします。

お手元に資料がない方いらっしゃいましたら、お知らせいただきたいと思います。よろしいでしょうか。

ご説明は以上でございます。

○**白土委員** 総合戦略というやつ。

○**川崎企画課長** 冊子ですね。今、事務局のほうからお持ちします。

○**社会長** それでは、本日の審議に入ります。

本日は、主要課題の22から29までの障害・健康分野を審議します。

本日の終了予定時刻は、前回と同じ8時半までとさせていただきたいと思ひます。

進行方法も前回と同じです。担当部長による説明と、委員の皆さんからの質疑を二つに分けて行ひます。

まずは、主要課題22から25までにつきまして、関係の部長から説明します。聞いていただく際には、資料第5号になります。令和7年度戦略点検シートをご覧ください。

それでは、関係部長、説明をお願いします。

○**鈴木福祉部長** 福祉部長よりご説明申し上げます。

初めに、64ページ、主要課題22、障害者の自立に向けた地域生活支援の充実です。

こちらでは、障害者の方の地域生活を支えるために、64ページに記載してありますような施設整備の促進や事業所人材確保対策、それから障害者基幹相談支援センターの運営、65ページにお進みいただきまして、地域生活支援拠点運営事業、このほか精神障害者の地域移行・地域定着事業に取り組んでおります。

65ページの3、成果や課題です。

初めに、障害者のニーズに応じたサービス・施設の拡充につきましては、民間事業者によるグループホームや生活介護施設の開設を進めるため、6年度に補助制度の拡充を図りました。本制度を周知し、施設整備を促進していく必要があると考えております。

次に、地域生活支援拠点の機能の拡充では、6年10月に障害者緊急時受入れ支援事業を開始し、地域生活支援拠点が担う五つの機能のうち、緊急時の受入れ・対応の機能を整備しました。また、専門的人材の確保養成については、医療的ケア児コーディネーター2名増となっております。

次に、精神障害者の地域における支援体制の構築・強化では、当事者の意見を取り入れ、当事者がピアサポーターとして活躍できる場を創出することが重要とされていることから、6年度はピア活動に焦点を置き、地域精神保健福祉連絡協議会やコア会議で検討しました。その上で、プロジェクトチームを発足し、複数回議論を重ねることで、ピアサポーター交流会の開催に至りました。

66ページにお進みください。4番、今後の展開です。

引き続き、グループホームや生活介護施設の整備促進のため、補助制度の周知を行い、活用が図られるよう進めてまいります。

拠点機能の体験の機会・場については、9年度移転予定の施設で実施するため、準備を進めます。また、障害者基幹相談支援センターにおける地域の相談支援体制強化として、実践報告会や事例検討会などを通じて、区内事業所の職員の人材育成を進めていきます。

精神障害者の方のピア活動を促進する機会については、継続的に実施できるような仕組みにしていきます。引き続き、協議の場において、地域のあるべき姿を検討するとともに、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を推進するために必要な取組を促進していきます。

続きまして、67ページ、主要課題23、障害者の一般就労の定着・促進です。

この課題につきましては、67ページの記載がありますとおり、障害者就労支援センター事業、中小企業等障害者職業体験受入れ助成事業、就労定着支援の推進によりまして取り組んでいるところです。

68ページにお進みください。3番の成果や課題です。

初めに、障害者の多様な就労機会の拡大につきましては、障害者就労支援センターの登録者、就労者は増加しております。一方、就労後に希望と異なる業務内容や働き方により、離職される方の人数も同じく増加傾向にあります。このことを踏まえ、より丁寧なマッチングや就労後の定

着支援について、より積極的に行ってまいります。

次に、一般就労への移行・定着では、福祉施設から一般就労への移行数は増加傾向にあります。

法定雇用率の段階的な上昇に伴い、企業における障害者雇用ニーズは高い一方、就労の前段階である生活面・医療面の支援、生活習慣、対人関係スキルの習得等に時間がかかるケースが増えておりまして、引き続き関係機関とのより深い連絡が必要となっております。

68ページの4、今後の展開です。

就労を希望する方と企業とのより丁寧なマッチングを行うとともに、新たに創設された、こちらの新しいサービス種別になります就労選択支援、こちらの適切な運用について研究してまいります。

また、職場における必要な配慮や工夫について、相談場面や実習場面を活用しながら引き続き取り組んでまいります。地域生活を送るために必要な生活・医療面の支援については、保健所や福祉施設、地域生活支援拠点などの関係機関と連携し取り組んでまいります。

続きまして、69ページ、主要課題24、障害者差別の解消と権利の擁護です。

この課題に対しましては、69ページにありますとおり、障害者差別解消推進事業、心と情報のバリアフリー推進事業、70ページに記載があります、障害者虐待防止事業、また、財産管理や契約行為をフォローしてもらえる成年後見制度、こちらの利用支援事業により取り組んでおります。

70ページの3番、成果や課題です。

初めに、心・情報のバリアフリーの推進では、コミュニケーションの円滑化を図るため、音声文字化、多言語翻訳機能を有する透明ディスプレイを障害福祉課、幼児保育課に設置し、窓口における情報のバリアフリー化を図りました。また、手話言語条例・意思疎通促進条例の施行に伴い、周知啓発用パンフレットを作成いたしました。

今後も引き続き、改訂いたしました「心のバリアフリーハンドブック」と併せて、手話や障害特性に応じた意思疎通手段の理解促進、それから普及を図ってまいります。また、区民や事業者が、障害者に対する不当な差別的扱いや、合理的配慮に関する理解を深められるよう、周知啓発を行い、理解促進の機会を設けていく必要があると考えております。

次に、虐待防止のための取組と権利擁護の推進では、通報や相談に対し、再発防止や、よりよい支援に向けて関係機関との連携や施設への改善依頼、定期的なモニタリングを適宜行っています。また、正しい理解や啓発のため、区民及び事業所向けに研修を行いました。

権利擁護の推進においては、成年後見制度の利用促進を図る中核機関を社会福祉協議会に委託して設置し、法律・福祉の専門職による助言等の支援や、関係機関等の協力・連携強化を図る会議を運営しています。この取組により、権利擁護の担い手の養成に向けて、事業の内容を検討しております。

71ページにお進みください。71ページの4、今後どのように進めていくか、展開について

です。

障害者差別の解消のため、合理的配慮に対する正しい知識を広めて、理解の促進を図るとともに、心と情報のバリアフリーを推進し、障害者理解の啓発を行います。条例に基づき、普及啓発、必要な場面における手話言語による意思疎通の施策、情報取得・利用・意思疎通の促進について、技術革新を背景とした手段の多様化等を踏まえ取り組んでまいります。

権利擁護を推進するためには、権利擁護入門講座や、7年度から開始します市民後見人養成講座の開催等により、担い手養成を進めてまいります。

続きまして、72ページ、主要課題25、生活困窮者の自立支援について説明いたします。

この課題につきましては、72ページに記載がありますとおり、生活困窮者自立相談支援事業、また、母子家庭及び父子家庭自立支援給付金事業において、取組を進めております。

73ページにお進みください。3の成果や課題です。

個々の状況に応じた包括的・継続的な支援といたしましては、母子家庭及び父子家庭自立支援給付金事業の周知とともに、資格取得に向けての相談、資格取得中の家庭相談、資格取得後の就労相談では、必要に応じて関係機関と連携を図りながら継続的支援を行っています。

複合的な課題を抱える生活困窮者の中には、社会や他者への不安も高い方も多く、中長期的に寄り添っていく必要があります。他機関や他制度と連携協働して、伴走型支援の体制を整備しています。また、社会状況に応じて、生活困窮者に向けた情報発信の強化も必要と考えております。

73ページの4、今後の展開です。

生活困窮者自立支援制度がより身近な仕組みとなるよう、制度の広報や効果的な情報発信をしていきます。また、社会福祉法に定めます重層的支援体制整備事業、こちら、組織の縦割りを超えて、組織横断的に連携をして包括的な支援を実施する、いわゆる重層的に支援をする体制をつくる事業という意味になります。

こちらが7年度から始まっておりますので、そちらの事業との連携を強化し、支援を必要とする人が窓口につながりやすくするようにします。また、必要に応じてアウトリーチ支援、こちらのほうから出向く支援を行いまして、本人の尊厳を確保しつつ、その気持ちに寄り添いながら、伴走型の支援を行っていきます。

説明は以上です。

**○社会長** それでは、ただいまの22から25までにつきまして、皆様のほうからご意見、ご質問をお願いします。いかがでしょうか。

それでは、白土委員、お願いします。

**○白土委員** 質問はありません。

**○社会長** いかがでしょうか。

それでは、柴崎委員、お願いします。

**○柴崎委員** 民生委員の柴崎です。

まず、課題22の障害者の自立に向けた地域生活支援の充実ということで、一番最後の65ページの3のところに、精神障害者の方の地域における支援体制の構築強化というのがございます。この中で、私が実際にお目にかかった方で、精神障害をお持ちでも症状が出ると大きな声を発するという方で、でもご近所には迷惑をかけたくない、でも、ここに住んでいたいという方がいらっしゃいました。

それで、基幹相談支援センターのほうに相談したんですけれども、その方がお医者さんにもかかってきちんとした医療も受けている。そのほかにご主人様が支えているので、家庭的にも特に問題はないということで、基幹相談支援センターのほうから、たまに民生委員さんのところに何か変わったら連絡があったら連絡をくださいということで終わってしまったんですね。

でも、それではいけないような気がしますし、ご主人様がすごく疲弊されていたんです。だから、ご家族を支える当事者・家族等の活動支援及び3行目にございますけど、ご家族を支える体制の具体的な例がどんなものがあるのか教えていただきたいと思います。

○**社会長** それでは、事務局、お願いします。

○**永尾障害福祉課長** 障害福祉課長の永尾と申します。ありがとうございます。

今、柴崎委員がおっしゃられましたように、障害のある方の支援は当事者の支援が中心ではありますが、それと同時にご家族の支援という視点も大変重要だと認識しております。

障害者基幹相談支援センターでのご相談は、そのような対応になっていたということですが、文京区では令和元年度から地域生活支援拠点を介護保険の4圏域に1か所ずつ整備しており、身近な相談機関として、様々な見守りも含めた相談支援を実施しておりますので、ぜひそのようなケースの場合、地域生活支援拠点にもご相談いただき、地域生活支援拠点としても支援をさせていただければと考えております。

○**柴崎委員** 私が最初に相談をしたときは、まだ地域のほうができていなかったんですね。それで、できたときに、じゃあ、どっちに相談すればいいんですかとお伺いしたら、どちらでも結構ですとおっしゃったので、そのままにしていまいましたけど。

なので、地域のことは地域のほうに相談したほうがいいということでしょうか。

○**永尾障害福祉課長** 障害福祉課長の永尾です。

現在、障害者基幹相談支援センターと地域生活支援拠点の役割分担を整理しているところで、障害者基幹相談支援センターは、どちらかというと複雑・複合化したケースを中心に相談支援を行っているところになります。

そこで、一定、課題が整理された方や、あるいは地域での見守り中心に相談支援をしていく方については、地域生活支援拠点でご相談を受けるケースが多いものですので、ぜひ地域生活支援拠点にもご相談いただき、一緒にどのようなことができるのかを考えていければと思っております。

○**社会長** それでは、その他、いかがでしょうか。

それでは、武長委員。

○武長委員 公募委員の武長です。

今、柴崎委員からご説明があったので、その内容に乗っかりたいと思うんですけど、65ページの93番です。

93番のところで、精神障害者の地域移行・地域定着ということを目指した事業ということでKPIが下に並んでいるんですけど、いずれもアウトプットの的なものだと思うんですけど、2番の措置入院者の退院後支援計画の策定率が上がると、地域移行とかそういうものに資するんだというところは、条件関係と因果関係がすごくしっくりくるというか、これが上がればそりゃそうだよなというふうに分かるんですけど、①と③なんですけど、連絡会の参加人数が増えると、地域移行にそれが指標として役に立つとか、福祉連絡協議会の回数が増えると地域移行にそれが資するんだというところの、KPIと結論と目指すところとの間の関係性が、はっきりよく分からないなと思っていますが、その辺りいかがでしょうか。

○社会長 事務局、お願いします。

○市川保健対策担当課長 保健対策担当課長の市川です。よろしくお願いいたします。

今、ご質問いただいた件です。この①と③の因果関係ですが、会議体の中で、地域の中で必要なもの、つまり「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」に必要なものを協議しているところでございます。

ハード面に加えて、支援者が実務的にどのように動いていくかという点についても協議しており、これらがこの「にも包括」には必要と考えておりますので、協議会の実施回数が増えることが、「にも包括」の実現につながっていくとの認識でおります。

○武長委員 ご回答ありがとうございます。

言いたいのは、連絡会の参加人数が例えばすごく増えると、地域移行、地域定着がすごく充実するとか、連絡協議会の回数が、これが例えば何十回になったら地域移行とか地域定着が充実するという関係には、数字上、多分ないんですけど、すごく安易にアウトプットのKPIが挙げられているように僕は感じるんですけど、その点いかがですか。

○市川保健対策担当課長 そちらの点については、いただいた意見を参考にしながら、今後の課題とさせていただきたいと思います。

○武長委員 ありがとうございます。ぜひ検討いただければと思います。

前に戻っちゃうんですけど、今回のところとずれるんですけど、主要課題、例えば21の90番とかもそうなんですけど、介護人材の確保・定着支援の指標として、啓発冊子の配付の件数とか、住宅費補助事業の利用とか、アクティブ介護のイベントの参加数とか、事業補助を何件、事業所数でやったかとかということが今度KPIで、これもアウトプット指標として挙げられていて、それで区民がこれを点検するときに気になるところは、区民の代表で今、公募委員で来ていますが、気になるのは結局これで介護人材が確保されたのか、定着したのかというところが、



気になると思うんですね。

これやったことによって、どういう成果があるかというところが多分すごく気になった。アウトカムの指標ですね。これも代表的だと思うんですけど、ほぼそこが全くはっきりこのデータから見られないと。

全部をアウトカムで計算して何か成果を全部上げてやるということは難しいのは、性質上難しいものもあるということはすごく理解しています。理解していますが、アウトカムのほうに寄ってきたところの関係性が極めて関連性が明確に見えるところの何かの指標というものを立てるような工夫というものを、少し基本構想全体的にですけれども、指標の立て方として工夫すべきではないかというふうに思っています。

難しいと思うんですけども、そうしないと、何かを実施したイベント実施回数とか配布した件数とか、そういうところに出資しても、結果にどの程度の影響を与えるかということが全く見えないので、その辺り、これに限らず全体的に検討していただきたいなと思いますけど、いかがでしょうか。

**○川崎企画課長** 企画課長の川崎でございます。こちら総合戦略の総合的に取りまとめている部署の課長でございます。委員のご意見ありがとうございます。

まさに、我々としてもそこは非常に大きな課題だと思っています。一応EBPMということで、数値成果に基づいた施策の展開につなげたいなと思っているところなんですけど、まだそこが道半ばといいますか、十分でないというところはあると思います。

ただ、数値に追われてしまうと、かつて過去の例でも、それに引っ張られてしまうという状況もあって、我々のほうでもそこが難しいなと感じているところなんですけど、今、委員のご意見ですとか、他自治体の事例等も出てきてますので、そこは検討していきたいと考えております。

**○辻会長** 確かに以前に比べると、以前はやや数字先行といいますか、そこに議論をしていたので、そここのところの空振り度というかムラがあって、今回のほうがいろいろ中身は議論しやすくなってはいますけど、同時に原点に立ち返ってちゃんとアウトカム指標を的確につくるということも必要なことなので、これも指標を入れ替えることになるので、タイミングがあるとは思いますが、ぜひより分かりやすい、実質的に議論もしながらそれに資する指標を設定できるように工夫していただきたいなというふうに思います。

**○牧野委員** 牧野です。

前回も自分自身のことでお話ししたと思うんですけど、相談をしに行くところというのが、どこに行けばいいかというのが、この間は伺ったんですけども、基本的によく分からないというのが、私の勉強不足なのかもしれないですけど、市民レベルじゃないのかなというのがあります。

それで、今回の障害者の自立に向けたとか、こういうことに関しても、障害者の方自身が、皆さんが示している施設のところにちゃんと相談に行けるのかといたら、疑問が湧くんです。どういう広報活動を具体的にされているのかというのが一つ疑問です。

もう一つは、65ページが一番下にあります精神障害者の地域における支援体制の構築・強化というところで、1行目に精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を推進するに当たり、当事者の意見を取り入れて、当事者がピアサポーターとして活躍できる場を創出すると、こう書いてあるんですけど、その精神障害を持っている人が当事者の意見ということで、発表したりとか、それからピアサポーターになるという活動というのが、どういうものなのかよく分からないんですけど。

○**社会長** 事務局、お願いします。

○**永尾障害福祉課長** 障害福祉課長の永尾です。

1点目の相談窓口の広報活動についてお答えさせていただければと思います。

毎年、区では障害者福祉のてびきの中で、様々な相談先や、サービスの内容を網羅している冊子を作っており、本書と、変更の部分を追補版として隔年で作っており、身体障害者手帳と、知的障害の方の愛の手帳を持ってらっしゃる方については、ご自宅に郵送させていただいております。

精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方は、手帳の更新が一定年数ごとにあるため、更新により手帳をお渡しするときに障害者福祉のてびきをお渡しして、ご案内しているところになります。

また、ご本人が相談にいらっしゃらないケースでも、ご家族の方からのご相談、そこからご本人のご相談につながるケースもありますし、また、様々なサービスにつながっている方ですと、そうしたところから相談につながっているケースもございます。

○**市川保健対策担当課長** 保健対策担当課長の市川です。

私のほうからは、後半部分のピアサポートについてご回答をさせていただきます。

精神障害者の方のピアサポートについては、同じような経験を持つ人同士が支え合って、回復や社会参加を促進する活動をさします。

具体的には、精神疾患から回復された方が、当事者の立場でほかの当事者の悩みを聞いたりであるとか、相談に乗ったり、経験や工夫をすることで、お互いの孤立感であったりとか、不安感を和らげて回復への希望を持つことを目的としております。

昨年度は、ピア活動の交流会というところで、各地域の事業所で行っている活動の発表であるとか、実際に精神疾患から一定回復された方が、こういうような経験でプロセスを経て回復されたというお話をいただきました。

現在、文京区では長期入院者、すなわち1年以上入院されている方への調査を行っていきまして、今後、長期入院者の方の地域移行を進めていきますが、長期入院者の方、1年以上入院されている方というのは、地域に戻ることに對しての意欲が減少していることがあります。

その中で、支援者だけでなく、実際に長期入院から地域移行した方のお話を聞くことで、勇気をもったりであるとか、モチベーションが上がったりということがあると言われてますので、ピアサポートの方には、ご協力いただきながら進めていきたいと考えております。

以上です。

○牧野委員 ありがとうございます。

○社会長 その他いかがでしょうか。

それでは、石樵委員。

○石樵委員 社会福祉協議会の石樵でございます。

主要課題25の生活困窮者の自立支援のところで、ご質問させていただきたいと考えております。

生活困窮者への支援ですけれども、私ども社協でも東京都社会福祉協議会から委託された事業で、生活福祉資金の貸付事業を行っています。ただ、事業の利用者ですけれども、なかなか生活福祉資金の貸付けで課題が解決されるということはほぼなくて、経済的困難のみではなくて複雑な課題を持っている方が多くいらっしゃいます。

そのような場合には、生活福祉課の自立相談支援担当の方と連携させていただくことが多くて大変助かっております。担当の方は、非常に区民に丁寧に対応されておられますし、私どもとも柔軟に連携協力してくださっていて、大変効果的な支援につながっているなど実感しているところです。

この自立相談支援事業の実績なんですけれども、この実績を拝見していると、多分コロナ禍から一旦落ち着いてきているのかなというふうにお見受けするんですけど、一方で、非常に物価高騰等、依然として続いておりますし、こういう状況の中で、今現在の事業の状況ですとか、今後の展望ですとか、あるいは今、見えている課題等ありましたら、教えていただければと思います。

○社会長 事務局、お願いします。

○坂田生活福祉課長 生活福祉課長をしております、坂田と申します。

生活福祉資金につきましては、今ご案内のとおり社会福祉協議会さんにおかれまして実施しているところです。実際、コロナ禍以降、社協さんのほうにおいて非常に迅速に対応していただいたことですか、あと、単なる貸付けの相談だけではなくて、そういった家計とか経済的なことですか、あるいは住まいのことや家族のこと、生活全般にわたって社協さんのほうでご相談に非常に丁寧にご対応をいただいております。

また、必要に応じて区役所の関係部署、私どもの生活福祉関係ですとか、そういったところにご案内いただいたりですとか、あと、また世帯によっては子ども食堂ですとか、地域の居場所などのそういった地域資源などにもつないでいただいたり、社協さんが持っている地域ネットワークを生かした活動を私ども行政ではなかなか及ばない部分で、活動させていただいているので、大変その点では非常に感謝をしております。

続いて、事業の課題等の件ですけれども、ご覧のように現在の実績につきましては、それぞれの事業は減少をしているような状況です。また、件数については、コロナ禍前の状況に戻っているような状況になっております。

例えばですけども、100番の①の住居確保給付金事業などでは、実はこの事業は家賃補助をするという事業ですけども、年齢的に20代、30代の方が仕事を離職されて、再就職のチャレンジをしているというようなところの事業で、そこを私どもの自立支援担当がご本人を伴走するような形で支援を行っております。

また、その2番目の相談事業等は、こちらは幅広い年齢層に応じたご相談に応じているような事業となっております。

課題というところですけども、これは全国的な傾向でもあるんですけど、単身の高齢者が非常に増加しているということもありまして、住居確保の困難な方への居住の支援ですとか、あと、子どもの貧困です。そういった対応などが求められているのかなというところで、法改正も今年度あったところでございます。

文京区においても、今年度、これまでの家賃補助に加えて、転宅費用の補助も行われるようにしたことですか、あと、子どもの学習支援については、学習面の支援だけではなくて、生活面での状況を把握して、こういった生活面でもご家庭を支援していくような取組を今年度も始めたところでございます。

以上です。

**○石樵委員** ありがとうございます。

うちの貸付事業ですけども、非常に相談は多いんですけど、貸付けである以上、返済が可能な方が対象になりますので、なかなか貸付につながらないんですが、それを補うようないろんな支援が区にもたくさんありますので、とても助かっています。よろしくお願いいたします。

**○辻会長** その他いかがでしょうか。

それでは、高岡委員、お願いします。

**○高岡委員** 今、生活資金の貸出しですけども、貸出しするのは返してくれる見込みのある方だけですよ。でも、問題がありそうだという方には、誰がどういう支援をされるんですか。ここは、貸出しだけだから、そこはあっちへ行ってくださいというふうになっちゃうんでしょうか。

**○石樵委員** 社協の石樵です。

ご指摘のところが本当に支援に当たる現場の職員も非常に苦慮しているところです。実際、これ、東京都社会福祉協議会の事業ですので、この制度自体は私たちの裁量がほぼありませんけれども、目の前で困っている人の問題は依然として続いてありますので、そのような場合は、生活福祉課ですとか、いろんなほかの制度等を探してつないでいくことをしています。

特に、生活福祉課の自立相談担当の方とは、ケースの方のいろいろな生活状況ですとか、その方のニーズですとか、そういうことも丁寧に申し送りを共有するような連携が日々取れていますので、結果としては丁寧に支援に当たることができているかなと考えています。

**○辻会長** お願いします。

**○坂田生活福祉課長** 今、ご指摘あったように自立支援につきましては、いわゆる生活保護に至

る前の困窮している段階で、支援を行うような事業になっておりまして、よく第二のセーフティネットとも言われるところでございます。

こういったところで自立支援事業も家賃補助ですとか、家計の相談ですとか、こういったところでも受けてもなかなか立ち行かないということになれば、最終的には生活保護というような最後のとりでといえますか、セーフティネットがございますので、こういったところをご案内するような形となっております。

○**社会長** 高岡委員。

○**高岡委員** 今の社会でお金に困って何とか助けてほしいということ自体が、非常に困難とか勇気が要するというか、ぎりぎりせっぱ詰まった状態の方だと思うのですが、ほかのいろんなところにつなぐというのは、どうされるのですか。一旦お帰りいただいて、あっちへ行ってくださいとなるのか、そこの困っているところに関係課の人が来て、隣で別室でご相談を続けるということなんですか。

せっかく勇気を振り絞ってきたのに、ここでは貸せませんとなったら、ほかへ行ってくださいといっても、そこまでのパワーはなくなっちゃうんじゃないかなと思うんですけど、どうなっているんですか。

○**社会長** もちろん石樵委員でもいいけど、まず、事務局に説明をお願いします。

○**坂田生活福祉課長** 生活福祉課長の坂田です。

ご指摘のように、区民の方をたらい回しという言い方はあれですけども、そういったことがないように、まずは一義的にご相談を受けて、親身に相談を受けるということは大切なと思っております。

私どものほうで相談を受けてお話を聞きますと、ご本人の気づかない、例えば働いていたときに年金をかけていたりとか、あるいはご病気、疾病で働けないということであれば、医療につながりとか、そういった本当にそれぞれ状況に応じて助言等を行っておりますので、そういったところでご本人のいわゆる自立を阻害しているような要因をこちらも探りながら、そういった状況に応じて対応しているというところでございます。

○**社会長** 石樵委員のほうで何か追加ありますか。特に。

○**石樵委員** ご指摘はおっしゃるとおりなんです。本当にあらゆる相談で、例えば私たちが対応できず、ほかのところに行ってくださいというところは、私たちにも心理的ハードルが非常に高いです。お役に立てないというのは大変申し訳ないことなんですけれども。

例えば、生活福祉課の自立支援担当の方とは、お互いの事業よく理解し合っていますので、まずそこで丁寧にご説明を互いにしてさしあげることができます。

職員同士の信頼関係というのは、それが利用者の方の安心感にもつながると、そこも実感しているところです。

なおかつ、具体的にもいろいろ配慮を工夫しておりまして、自立相談支援担当の方は、うちに

例えば相談の場に同席も非常に積極的にしてくださっていますし、私どももそれを心がけています。

そのようにして、何かしらとにかく伴走して寄り添ってつなぐという作業をしていくということをや丁寧に心がけてますし、今年度からは重層も始まりましたので、そこのハードルは一層下がるのかなと期待しているところです。

○**社会長** はい、どうぞ。

○**高岡委員** 高岡です。

別の質問なんですけど、先ほどの精神障害者に対するピアサポーターを養成するとか、ピア活動に力を入れろとあるんですけども、このピアサポーターは精神障害を持つ方だけですかね、ほかの障害者に対するピアサポートというのは、文京区では行われていますか。

○**社会長** 事務局いかがですか。

○**永尾障害福祉課長** 障害福祉課長の永尾です。

現在、力を入れて取り組んでいるのは、精神障害のある方のピアサポート活動になりますが、例えば障害者施設を利用している方については、施設の中で利用者同士が様々な悩みを共有したりする取組は、ピアサポート活動と位置づけるかどうかは別にして、そうした取組は職員の支援の下で行ったりしているところになります。

○**社会長** はい、どうぞ。

○**高岡委員** 施設にいれば職員の方も、あるいはカウンセラーの方、相談員の方も来られたりして相談する機会はあると思うんですけども、聴覚障害者の場合には、そういう施設には入居しない、普通に地域に日常生活を送っているんですけども、どこに相談に行くか。

一つは、手話通訳の方が個々の生活場面に通訳として同行しますもので、それは通訳者として何か問題があったときには、基本は直接、聴覚障害者に何かするというのではなくて、普通は派遣元に、つまり障害福祉課にこういうことがあったよということを報告して、障害福祉課が必要な支援あるいは関係課につなぐということになると思うんですけども、そういう形で行われているのでしょうか。

○**社会長** 事務局お願いします。

○**永尾障害福祉課長** 障害福祉課長の永尾です。

施設を利用していない方のコミュニケーションや、様々なお話ができる場としては、先ほどの地域生活支援拠点では、相談だけではなく、様々なサロン活動として、障害のある方だけではありませんが、障害の有無にかかわらず、地域の皆さんが集って、様々なイベントを実施したり、あるいは訪れた方がお話をして帰られるというような活動も行っているところになりますので、同じ障害のある方同士でお話をするというピアサポート活動とは、少し違うかもしれませんが、そのような活動も実施しているところになります。

また、相談のつなぎ方という部分は、相談を受けた部署等がその方のお話を伺って、どのよう

な関係機関につないだらいいのか、しっかりとご相談者の趣旨を踏まえて、日々対応しているところになりますので、引き続きそのような形でしっかりと関係機関同士で連携して対応していきたいと考えております。

○**社会長** お願いします。

○**高岡委員** 今、私がお話しした手話通訳の方が、通訳の現場で見たり発見した課題というのは、その場で通訳者が個人的にああしたほうがいいよ、こうしたほうがということはないと思うのですけれども、派遣元にこういうことに困っていましたよと、どうも家庭内でDVにあっているように見受けられますとかという報告が必要だと思うんですが、そういう報告は年間何件かは上がってきているのでしょうか。

○**社会長** 事務局お願いします。

○**永尾障害福祉課長** 障害福祉課長の永尾です。

何件というところまでの集約や取りまとめまではできていませんが、手話通訳の方が同行し、そのご家庭で何かしら課題が発見されたという場合は、区にその内容が共有をされれば、区としてどのような形でご家庭の支援をしていくのか考えていく形になります。

ただ、当然、支援していくという形になりますと、ご本人、ご家族の同意も必要になってきますので、どのような形で支援に入っていけるのか考えて対応する形になると思います。

○**社会長** いかがですか。

○**高岡委員** そういう方向で進めていただければよろしいかと思います。私自身も同じ聞こえない方、聞こえにくい方から日常生活用具の相談ですとか、補聴器の購入ですとか、様々な相談を受けていますので、これもピアサポートになっているかなと思います。

ただ、メンタルといいますかね、精神的な課題を抱えている方への支援は難しいです。そうしよとすると、私のほうのメンタルが壊れちゃうというぐらいのものなので、そうするとどこにどういう段階で、そういうサポートにつなぐかというのも、私もいまだにまだ模索中で、ここの文京区の心のサポーター養成の研修がありましたね。私、受けて、昨日、何か厚生労働省から修了証をもらったんですけども、とてもまだサポートするというようなことはできないですね、私自身がもっとサポートしてもらいたいと思っているぐらいです。

また、別のことでいいですか。

69ページの心と情報のバリアフリーの推進というところですか。文京区は今年6月からですか、遠隔手話通訳サービスを始めていただいて、文京区、このシビックセンターのどこにでも遠隔手話通訳サービスを受けるQRコードが置いてあったり、あるいは図書館とか地域包括支援センターにも置いてあって、何人かの方はとても助かっているということを聞いています。

今、実績はまだ何か月かですけども、どのぐらいありますでしょうか。

また、今後拡大していくために、何か考えていらっしゃるのでしょうか。

○**永尾障害福祉課長** 障害福祉課長の永尾です。

今、高岡委員からお話がありましたとおり、今年度の区の重点的に取り組む施策として、遠隔手話通訳を導入しているところになります。

実績としましては、図書館、高齢者あんしん相談センター、戸籍住民課で利用実績があり、障害福祉課でも、配置をしている手話通訳者が不在だったり、対応中のときに、既に遠隔手話通訳を利用しています。

こういった取組を進めていく中で、さらにどういったことができるのかというところで、区のほうでも引き続き考えていきたいというふうに思っております。

○高岡委員　ありがとうございます。

私たちも当事者団体として、もっと会員及び区内の聞こえない、聞こえにくい方が利用していくように働きかけたいと思います。

もう1点は、先ほどの相談の窓口のことなんですが、今日もメトロの後樂園の駅からシビックのほうへ歩いていったとき、シビックに入ってからかな、何か水色っぽい何とか相談というポスターがあったんです。何か何でもご相談を受けますよというようなポスターなんですけども、電話番号だけというのが、聞こえにくい人、聞こえない人が電話できないので、お役所が開いている時間だったら遠隔手話サービスを使えばいいんですけども、遠隔通話サービスは目の前に相手がいるときに使うためです。目の前に聞こえる人がいて、私が聞こえないといったときに、スマホでもタブレットでも手話通訳で話せるわけです。

でも、相手がいらない、電話するといったときには、普通は電話リレーサービスといって、電話をするシステムがあるんですけども、これは登録していないとできないんです。

その代わりに、手話リンクというものが開発されていまして、それは受けたほう、つまり文京区のお役所が費用を負担する形で、QRコードをスマホで撮ると、目の前に手話通訳の方が出て、手話リンクにつながる電話番号の人と話ができるというものなんですね。これは、文京区全体でぜひ取り上げてもらいたいと思います。

警察庁が、9月に全国の警視庁、道警に対して、夜、交番が無人になります、電話機が置いてある、聞こえる人はいいんですけども、夜間何か怖いといって聞こえない人が行ったときに、お巡りさんと呼ばないわけです。手話リンクというものを警察庁から全国で整備するようという通達が出て、11月1日から神奈川県警が全部始めたんです。東京ではまだですけども、そういうシステムを文京区でも採用していただければと思います。

あと、もう一つは情報バリアフリーというのを私たち聴覚障害者、それ以外の視覚障害者の方も施設を利用する、どこかに行くといったときには、情報が非常に重要になるのですけれども、文京区は条例ができていますので、もっと積極的にこの問題に取り組んでももらいたいと思うんですが、文京区にはバリアフリーに取り組んでいるところが3か所ある。一つは、都市計画課のバリアフリー基本構想推進協議会をやっている都市計画課、それから、情報意思疎通促進条例を制定した障害福祉課、もう一つは、企画課にユニバーサルデザインを担当するところがあるらしい。



この3か所というのは連携が取れているのか、それを知りたいのです。

区議会で、図書館のユニバーサルデザインについて協議する場をつくってほしいとお願いしたんです、私。そのときのお答えが、文京区には施設の総合管理計画とか何かがあるので、そっちでユニバーサルデザインの検討をしてもらってくださいと。でもそこは、当事者が呼ばれていない。当事者が呼ばれていないのに、どういう内容を検討しているのか分からないのです。だから、その辺の連携と当事者の関与はどうなっているのか、気になっています。

以上です。

**○永尾障害福祉課長** 障害福祉課長の永尾です。

まず1点目の手話リンクについては、幾つかの自治体で既に導入が始まっているという事例を区も認識しております。

現時点で、区として手話リンクを導入する予定はありませんが、ただ、情報の取得や意思疎通は非常に重要だと考えておりますので、どのような形で適切な支援が行われるか、引き続き区としても考えていきたいと思っております。

2点目の情報のバリアフリーについては、現在、企画課でのユニバーサルデザインの検討に障害福祉課と都市計画課も参加しておりますし、バリアフリー基本構想の検討の際には、障害福祉課も参加したり、検討過程において、都市計画課と障害福祉課で様々な意見交換もしていますので、必要な連携を引き続きしていきたいと考えております。

**○川崎企画課長** ユニバーサルデザインについては、担当課長が本日不在ですので、私のほうからお答えをさせていただきます。

委員ご指摘なのが、公共施設の総合管理計画というものを昨年、文京区のほうでつくりまして、その中でユニバーサルデザインも今後、区の施設の中で進めていこうという方針が示されたというところでございます。

今まさに企画課ですとか、施設の所管課と情報交換ですとか、今後どのように進めていくかというところを、検討を進めているところです。そういった今後の例えば改築ですとか、改修にご利用者のご意見をどこまで反映させていくということも、今後、検討していく範囲に含まれているという状況でございます。

**○高岡委員** いずれ当事者、いろいろな障害者も意見、要望を出す機会があるというふうに受け止めてよろしいでしょうか。

**○川崎企画課長** 今後、そういった施設の改修ですとか計画にどのような形でご利用者の声を入れていくかというところを、今まさに検討しているというところでございます。

**○高岡委員** 入れるかどうかを検討しているのですか。入れるんだけど、どのように取り入れるかということを検討しているんですか。

**○川崎企画課長** ユニバーサルデザインの考え方として、幅広いどのような方でもご利用しやすい施設というのが必要になってくるというのが、区の認識でございます。

そのためには、ご利用者のお考えとかを入れていくことが扱いやすい施設につながっていくという考えを持っております。それを具体的に、どのように進めていくかというところを現在、検討を進めているという状況でご理解いただければと思います。

**○高岡委員** すみません、何度も。私、図書館のユニバーサルデザインを検討する場をつくってほしいと請願を出したのですけれども、それは総合管理計画のほうでやるから、ここでは要らないというふうになっちゃったのですけれども、図書館のユニバーサルデザイン機能というと、施設一般ではないんですね。図書館を利用するために必要なユニバーサルデザインというのがあるわけで、それは当事者の意見とか人数を聞かないと具体化しないと思うのですけれども、意見を聞くかどうか検討するではなくて、必ず聞かなくちゃいけないことになっているんです、こういう計画は。

いつになるか今年になるか来年になるか分からないけれども、意見を聞いた上で、計画を公表するというプロセスをお答えいただきたいと思うのですけれども、いかがでしょうか。

**○川崎企画課長** 繰り返しの答弁になってしまいまして、私も代わりに答えておりますが、今、そういったやり方がどのように進めていくことができるかというところを、今、進めているところですので、実際、例えば図書館も含めて、改築ですとか改修というところが出てきたときには、そういう何らかの形でお示しできるんじゃないかなと思うのですけれども、今この場でどのようにやっていきますというのは、お答えができないのですけれども、今、検討を進めているというところで、本日のほうはお答えをさせていただきます。

**○高岡委員** 分かりました。障害福祉課のほうに、聞こえない人、聞こえにくい人の課題とか要望をお伝えしていくので、そのことが企画課にも都市計画課にもあればいいなと思います。よろしくお願いします。

**○社会長** ありがとうございます。

それでは、その他いかがでしょうか。

栗原委員は何かありますか。

**○栗原委員** 公募委員の栗原です。

感想なんですけれども、24番の障害者差別の解消と権利の擁護についてです。

私、10年文京区で住んでいるところでは、自閉症の方や、行動障害の方がとても過ごしやすいような環境が整っていると思っています。これは皆さんの理解があって、見守る仕組みがあるからだと本当に感じています。

皆さん、区民の認知や理解がしっかりしていて、とてもいいなと感じる部分でございます。

以上です。

**○社会長** これは事務局が答弁しやすい。

喜んで答弁して。

**○永尾障害福祉課長** 障害福祉課長の永尾です。ありがとうございます。

自閉症のある方や行動障害のある方については、ご本人の個性・特性をしっかり把握をした上で、過ごしやすい環境づくりやコミュニケーションの取り方などの工夫が非常に大切だと考えております。

今、区の中でも行動障害の方を支援するために、障害者施設同士で様々な意見交換もしているところですので、そのようなところで支援の質を引き続き高めていきたいと考えております。

また、障害者施設等を整備する際に、地域の皆様に様々なご説明をする中でも、ここ数年で障害理解が進んできたと感じているところになります。区でも、心のバリアフリーハンドブックを活用して、子どもの頃から障害、あるいは障害のある方への理解を進めているところになりますし、障害者週間に合わせて、シビックセンターで障害のある方が作成された作品の展示なども実施しておりますし、地域支援フォーラムという、区民の方向けの障害にフォーカスした講演会や映画会なども実施しておりますので、そのような取組を引き続き進めていくことで、地域の障害理解を進めていきたいと考えております。

ありがとうございます。

**○社会長** それでは牧野委員、お願いします。

**○牧野委員** 牧野です。

71ページの4番の今後どのように進めていくかという展開のところなのですが、権利擁護を推進するため、権利擁護入門講座や市民後見人養成講座というのが書いてありますけれども、これは具体的にどんな講座になりますか。教えてください。

**○社会長** 事務局、お願いします。

**○鈴木福祉部長** 実は、社会福祉協議会の方をお願いしているのですが、まず私、福祉部長のほうから拙くなってしまったら申し訳ありません。説明させていただきます。

権利擁護につきましては、入門的、地域の方に分かっていただくという地域理解、こちらも非常に大切なことになってございます。ですので、まず入門講座のほうでは、そのような知識の普及を目指しながら取り組んでいる部分になります。

もう一方の、市民後見人養成講座になりますと、こちら先ほどお話しさせていただきました成年後見制度自体は法律に基づくきちんとした制度で、家庭裁判所が指定をして選定される方なのです。ただ、そうはいっても、区民の方が、私やりたいですと言って、はい、どうぞという制度ではないので、まずは基本的な知識、市民後見人としてこれから活躍してもらうために、まず基本的なことをこの養成講座で学んでいただいて。これ、今、申込みが始まったばかりになりますので、そこからステップアップしていきながら、いろいろな活動も踏まえながら。活動というのは権利擁護に資するような。

市民後見人は家庭裁判所からお願いされないとならないので、その前の段階からいろいろな活動もして、さらにステップアップして、最終的にはそのような形でちゃんと家庭裁判所から選ばれる、市民後見人の名簿に登録できる人材育成がゴールになっています。結構そういった意味で

は、もう2年くらいかけてこつこつとやっていく取組になりますので、そのような形で進んでおります。

よろしいでしょうか。 社協さんの前で恥ずかしいですけども。

○**社会長** 石樵委員から何かありますか。いいですか。

○**牧野委員** ありがとうございます。

○**社会長** よろしいですか。

大体予定の時刻になりました。よろしいでしょうか

それでは、柴崎委員、お願いします。

○**柴崎委員** 最後。

介護サービスのところで63ページ、介護人材の確保・定着についていろいろ補助事業がございますけれども、障害者施設にお勤めになっている方に何か補助事業はございますでしょうか。その辺を伺いたかったです。

○**社会長** 事務局、お願いします。

○**永尾障害福祉課長** 区独自の人材確保策としては、今年度新たに東京都の補助を活用して、居宅介護や重度訪問介護、あるいは移動支援の人材を事業者が確保する際に、未経験者を雇用した場合の人件費の補助や正式採用される際の資格の取得の補助などを始めたところです。

それ以外の住居の補助や家賃補助、あるいは東京都で実施している居住支援特別手当として、採用されてからの年数が短い方は月に2万円、それ以外の方は月に1万円を支給する事業は、介護保険と共通になっておりますので、そのような東京都の補助制度も活用していただきながら、人材確保・定着を進めているところになります。

○**柴崎委員** ありがとうございます。

○**社会長** それではここまでとしまして、次に主要課題26から29です。ここに入ります。

関係の部長、説明をお願いします。

○**矢内保健衛生部長** 主要課題の26から29までをご説明します。

まずは、74ページ、主要課題26、区民の主体的な健康づくりです。

区は健康の保持増進のため、区民が健康的な生活習慣の必要性を理解して主体的に健康管理を行うこと、喫煙による健康被害に関する意識が高まり、禁煙行動が促進されることを4年後の目指す姿として、生活習慣の改善と、主体的な健康づくり、喫煙による健康被害の防止に取り組んでいます。

1、主要な事業として、生活習慣病予防事業、健康づくり事業を実施し、これらの事業の参加者数は増加しています。

また、国民健康保険の保険者として、特定健康診査・特定保健指導とともに、糖尿病性腎症重症化予防事業を実施し、さらに受診・服薬の適正化にも取り組んでいます。

喫煙による健康被害の防止に向けて、受動喫煙防止対策事業や普及啓発、禁煙支援を実施して

います。

2の社会環境等の変化として、国は令和6年度から、21世紀における第五次国民健康づくり運動（健康日本21（第三次））を開始しています。

3の成果や課題については、区民が運動を習慣化し、身体活動量を増やすことができるよう、今年度から健康アプリを開発し、活用に向けて普及啓発に取り組んでいます。

また、特定健診の受診率、特定保健指導の実施率の向上は課題です。

喫煙・受動喫煙による健康被害の防止に向けては正しい知識と普及啓発を実施し、喫煙率は男性、女性共に減少傾向にあります。

4の今後の展開については、生活習慣の改善と健康管理の推進を目指して健康アプリを活用するなど、区民の主体的な健康づくりを進め、健康寿命の延伸を目指します。

また、特定健診の受診率向上に向けて、効果的な受診勧奨に取り組んでいきます。

後期高齢者を対象とした糖尿病性腎症重症化予防事業については、データ連携等を図り、一体的に実施していきます。

また、喫煙による健康被害の防止に向けて正しい知識の啓発に努めるとともに、主体的な禁煙の取組を支援してまいります。

次に、77ページ、主要課題27、がん対策の推進です。区は、区民ががんに関する正しい知識を持ち、がん検診を受診すること、がん患者とその家族ががんと共生し、自分らしい地域生活を送れることを4年後の目指す姿として、がんに関する知識の普及啓発、がん検診受診率の向上、がん患者の地域生活支援に取り組んでいます。

1の主な事業として、死亡率減少に科学的根拠があるとして、国が示す胃がん、肺がん、大腸がん、子宮がん、乳がんの五つのがん検診を実施しています。

がんの知識の普及・啓発としては、乳がん月間、がん征圧月間、国際小児がんデー、女性の健康週間等でのイベント普及・啓発を実施しています。

がん患者の支援として、ウィッグ購入費用の助成や、骨髄移植ドナー支援制度、骨髄移植後の任意予防接種費用助成制度等を実施しています。

3の成果と課題についてです。がん検診は受診対象者全員に受診案内のはがきを送付するなどの受診率向上策や普及啓発を進めたことにより、五つのがん検診の受診率が向上しています。さらなる受診率の向上が課題です。

がん患者の支援として、ウィッグや胸部補正具の購入費用助成については、対象品目や助成額を拡大し、使いやすい制度としました。

また、6年度には、がん療養支援マップを作成し、7年度から若年がん患者在宅療養支援事業を開始しました。今後はさらにがん患者とそこご家族に療養に必要な役立つ情報を効果的に届け、地域生活を支援することが課題です。

4、今後の展開としては、引き続きがん検診受診率向上に取り組むとともに、がん患者のアピ

アランスケアや若年がん患者支援、療養資源の情報整備や患者の交流会などを進めています。

次に、８０ページの主要課題２８、新興・再興感染症対策の推進です。区は、区民が正しい知識を持ち、感染症予防に取り組めることや感染症危機管理体制を構築し、新興・再興感染症の発生時の区民の安全確保を４年後の目指す姿として、感染予防対策の推進や健康危機管理体制の整備、感染症の拡大防止に取り組んでいます。

１の新興・再興感染症対策推進事業として感染症発生を想定した訓練や研修を継続して実施するとともに、区内医療機関や医師会等との連携を強化しています。

また、麻しんの国内発生・拡大を防止するためにMRワクチンの接種率向上に取り組んでいます。

２の社会環境の変化としては、感染症法改正により令和７年度から急性呼吸器感染症が新たに５類感染症に追加されてサーベイランスが実施されています。

定期接種のMRワクチンや任意接種のおたふく風邪ワクチンについては不足による出荷制限への対応として接種期間を延長しました。

医療DXとして国が進める予防接種事務のデジタル化について区の健康管理システムの標準化を７年度に行う予定です。

３の成果や課題についてです。様々な感染症の流行時にはホームページやSNSを活用して、区民への情報提供、注意喚起を行いました。重症化を予防するためのインフルエンザや新型コロナワクチン、肺炎球菌ワクチンなどの高齢者の定期接種の接種率、小児のMR２期等の接種率のさらなる向上は課題です。

健康危機管理体制の整備については、保健所内での定期的な訓練や、区内の感染症指定医療機関や大学病院との訓練を実施しています。

医療機関、医師会とは連絡会を定期的開催し、顔の見える関係づくりを進め、情報共有、意見交換を実施しています。

また、現在新型インフルエンザ等対策行動計画の改定作業を進めています。

感染症の拡大防止は重要な課題であり、感染症管理システムを活用し、発生動向を注視、分析し、都とも連携した取組をさらに進めていくことが課題となっています。

４の今後の展開としては、感染症予防計画に沿って感染症業務のICT化、保健所職員の訓練や研修、医療機関との連携により感染症対応力の向上を図ってまいります。

定期予防接種の接種率向上や任意接種の費用助成に取り組み、ワクチンで防ぐことができる感染症の予防を進めてまいります。

最後に８２ページ、主要課題２９、総合的な自殺対策の推進です。区は誰も自殺に追い込まれることのない社会を目指し、区民一人一人の気づきと見守りを促すとともに、自殺のリスクになり得る様々な生きづらさを抱える人に対して、社会的な支援の手が差し伸べられ、区の自殺死亡率の減少傾向が維持されることを４年後の目指す姿として、自殺対策の啓発と人材育成、関係機

関・地域ネットワークの強化に取り組んでいます。

総合的な自殺対策の推進として、ゲートキーパー養成講座や自殺対策講演会、ICTを活用した自殺対策事業などを実施しています。

2の社会環境の変化としては、近年増加傾向にある子どもの自殺への対策を推進するための基本理念を明記し、体制整備について定めた改正自殺対策基本法が令和7年6月に成立しました。

全国の自殺者数は令和2年に11年ぶりに増加に転じ、その後2万1,000人台で推移しています。

成果や課題についてです。

ゲートキーパー養成講座を人材育成の柱として位置づけ、職員向け、区民向け、支援者向けの講座を実施しています。関心を持つ、相談へつなぐ、高い気づきや技術を修得するという目的を明確化し、適切に行動できる人材育成を計画的に継続していくことが課題です。

自殺対策講演会は若者世代への啓発が重要です。

また、関係機関・地域ネットワークの強化に向けて、庁内の委員会と外部の有識者や関係機関で構成する自殺対策推進会議で検討を進めています。自殺未遂者などのハイリスク者への支援も課題であり、関係機関との連携を図り、意見交換会を実施しています。

4の今後の展開です。ゲートキーパー養成講座を引き続き実施し、区民・サポーター・支援者を対象として、それぞれの関心が深いテーマを選定し、展開していきます。また、区職員のゲートキーパー数を増やしていきます。自殺対策講演会については社会情勢の変化に合わせ、研修テーマや講師、実施方法を工夫した企画で実施していきます。自殺予防週間や自殺予防月間には都とも連携し、街頭キャンペーンを引き続き実施します。

地域ネットワークの強化については、関係団体等と連携し、自殺対策推進のための施策を検討してまいります。

実務者を対象とする自殺未遂者とハイリスクや支援の在り方を考える意見交換会では双方向のネットワーク構築を進め、支援体制を検討していきます。

さらに、自殺リスクがある方を対象として、引き続きICT活用の自殺対策に取り組むとともに、区内の大学病院と連携して、自殺未遂者などを今後の支援に結びつける検討を進めていきます。

また、区内大学の学生支援室とのネットワークを構築する事業を展開してまいります。

ご説明は以上です。

**○社会長** それでは、皆さんのほうからご質問、ご意見をお願いします。いかがでしょうか。

石樵委員。

**○石樵委員** 社会福祉協議会の石樵でございます。

主要課題27番のがん対策の推進についてお伺いいたします。

がん患者の交流会についてお伺いしたいと思っております。本富士地区にあります地域の居場

所、Reなどしこ元町という居場所がありますけれども、そこでがん患者の方を対象とする交流会を開催されておりまして、私ども、社協もお手伝いさせていただいています。

これについて当事者の方ももちろんなのですが、運営側に区民の方、居場所に関わる区民の方も参加されておりまして、そちらからも大変好評の声を聞いております。このような事業は居場所に関わる地域住民の方がそういう活動があることを知って、安心して文京区で暮らすことにつながるという点で非常に意義が深いものと感じております。

なので、社協としても、今後継続に向けて引き続き協力させていただきたいと考えております。

お伺いしたいのは、このがん患者支援については、この活動のほかにも区として地域資源活用しながら取り組んでいることがあると聞いておりますけれども、具体的な内容について教えていただければと思います。

**○社会長** 事務局、お願いします。

**○大武健康推進課長** 健康推進課長の大武です。今、がん患者支援についてのご質問がございましたが、がんの治療中であつたり、治療後も安心して地域で暮らせるよう相談の場や、がん患者と、その家族の方が利用できる居場所等の地域資源をまとめた療養資源マップ、こちらを区内のがん相談支援センターと連携して、文京区がんサポートあんしんガイド、この中に作成して、配布しているところでございます。

この地域資源といたしましては、文京区には四つの大学病院と都立駒込病院がございますので、その病院にそれぞれがん相談支援センターがございますので、周知と委員ご指摘の地域の居場所としての、町の保健室のような、ふらっと立ち寄って何げない雑談から健康に関することまで何でも話しながらゆっくり過ごせる場所として案内しているところでございます。

今、委員のほうからもありましたががん患者交流会につきましては、ご指摘のとおり社会福祉協議会の職員の方も一緒に参加していただいておりますけれども、地域の居場所を活用して実施しておりますが、その理由といたしましては、がん患者の方の孤立感を和らげること、それと地域の居場所の存在をがん患者の方にもぜひ知っていただきたいという趣旨で会場をお借りしているところでございます。

その参加された方からは、ほかのがん患者の方と交流できて、一人でないと感じたということや、同じ経験を持つ人と話すことで気持ちが整理できた。または、地理的な話題、地域のお話でございますので、そこも共有・共感できて、自分の経験がほかの方の役に立ったのであれば非常にうれしいといった感想の声をいただいているところでございます。

このような地域資源を活用しながら、引き続きがん患者支援に努めてまいりたいと考えてございます。

**○石樵委員** ありがとうございます。

活動に区民の方が関わっていることが非常に大事なことと感じていて、そのことで自分に引き寄せて、自分の課題というか、自分の問題として、また意識を向けるところが非常に感じており



ますので、今後もぜひよろしくお願いいたします。

○**社会長** その他、いかがでしょうか。

では、武長委員、牧野委員で行きましょう。

○**武長委員** 公募委員の武長です。

さっきK P I の話をさせていただいたのですけれども、それとの関係で74ページを見ていただきたくて。

74ページ、102番の生活習慣病予防事業というところで、生活習慣病、どのくらい予防事業のほうの成果が出ているかというところで、①のK P Iに参加者数が挙がっていて、その後、②で事業参加者の運動習慣の定着率とか書いてあるのです。98.0%とかと、これアンケートだと思うのですけれども、多分、そうですね。こういうのがあると分かりやすいと思いました。

事業との関係では、参加者が結局何人か分かっていて、実際に行動変容をしているかどうかはそれは取りようがないので分からないのですけれども、一応そうなのだと思うと。

例えば、あと、82ページの116番とかですけれども。自殺対策の促進ということで、ゲートキーパー養成講座での参加者の理解度というのが書いてあって、結構高いです。100.0%とか。本当かという感じですが、アンケートなのだろうと思うのですけれども。

では、何人受けたのだろうというところ、下の補足のところに人数が、職員向けとか、区民向けとかいろいろ書いてあって。

それで、②番、自殺対策講演会、これもやったのだと。参加者の理解度、これもアンケートだと思うのですけれども。人数、カウントしていた中には、92%、100%、92.9%とか挙がっていて。これも本当に実際に行動変容をして、理解しているかどうか分からないのですけれども、ただ、一応アウトカムに寄せる、これが十分かどうかという議論もあると思うのですけれども、僕も素人なのであれですけれども。

ただ、アウトカムに寄せる意識はこういうK P Iの設定からは一応見ることができるように個人的には思っていて、こういうのだと分かりやすいなと読んでいて、だんだんしっくり来る感じなので、すごく肯定的な意見を最後述べさせていただいて終わりたいと思いますので、ぜひほかのところも頑張ってくださいというところです。

○**社会長** 事務局、何かありますか。

○**大塚保健サービスセンター所長** アンケートの取り方の部分として、お褒めの言葉をいただいてありがたい部分もあります。

今、健康アプリという形で歩数の部分を、今、今年度からスタートしているところでございまして、今大体2,400ダウンロードしている状況です。そこの部分に関しましても継続率は一応クラウドをつなげて見ることができる状況になっていますので、合わせた形で行動変容へどうやってつなげていくのか、広報周知も含めた形で使っていければと思っているところです。

○**矢内保健衛生部長** 補足です。

アウトカム、アウトプットの指標についてご指摘をいただいております。

健康に関する様々な施策については、例えば、がんであれば死亡率減少という明確な指標がございますけれども、そのほかのものについては具体的に数値を挙げて評価することがなかなか難しい部分も多いと考えています。

ただ、分かりやすい形で施策がどのような効果があったかということをお示しするのは、健康施策を所管する部署として非常に重要だと考えておりますので、ご指摘も踏まえて今後も努力していきたいと考えております。

○**社会長** それでは、牧野委員、お願いします。

○**牧野委員** 公募の牧野です。

この主要課題の29番なのですけれども、自殺対策ということで少し思い出してしまったのですけれども、私のおいが福岡に住んでいたのですけれども、5年前に自殺をしたのです。40代の前半だったのですけれども。

ここに書いてあるゲートキーパー養成講座が、私もこういう講座を知っていて、もう少し早くにこういう講座を受けていたらよかったなと思いましたので、内容を少し教えていただきたいということと。

40代ということは、うちのおいは高校の先生をやっていたのですけれども、仕事をしているとそういうところに相談をしたりとか、社会的な地位があったりとかいうことで、なかなか難しいのかと少し思ひまして、この講座のことをもう少し教えていただけたらと思います。

お願いします。

○**社会長** 事務局。

○**市川保健対策担当課長** 保健対策担当課長の市川です。

ゲートキーパーについてですが、自殺の危険を示すサインに気づいて、適切な対応を図ることのできる人のことで、その適切な対応が、悩んでいる人に気づく、声をかけて、話を聞いて、必要な支援につなげて見守るというところになります。

自殺対策では、悩んでいる人に寄り添って、関わりを通して、孤立や、孤独を防いで支援することが重要であると考えております。

一人でも多くの方にゲートキーパーとしての意識を持っていただいて、専門性の有無にかかわらず、それぞれの立場で、できることから進んで行動を、できる範囲で起こしていただくことが自殺対策につながっていくと考えております。

○**牧野委員** このゲートキーパー養成講座の申込みとかは、広報とかそういうのに載っているのですか。

○**市川保健対策担当課長** 区報や、各種SNSで周知をさせていただいております。

○**牧野委員** ありがとうございます。

○**社会長** その他、いかがでしょうか。どうでしょう。

では、私のほうから三つばかりお伺いします。

一つは74ページのところですか。主体的な健康づくりのところで、前、フレイルのところもあったときに、あそこでたしか健康寿命出てきたと思うのですけれども、普通、主体的な健康づくりというタイトルを聞くと、それこそ一丁目一番地で健康寿命があってもいいのではないと思うのですけれども、ここでは特に触れない形になっていますと。

健康寿命の扱い方については、母集団の問題ですとか、指標の安定性ですとか、いろいろ課題も言われていまして、区としては今回どのぐらいの位置づけで考えているかをお伺いしたいというのが1点目です。

それから、2点目は、がん対策のところですか。77ページのところになりますが、これ、非常に重要なことで、これ、私も少し不案内なところがあるのですが、それこそ国のほうが大体推進のこれは科学的に見てがん検診やるべきだという基準をたしか出しているはずなのですが、過去の経緯もあって、必ずしも国から見ると科学的にあまり意味がないという健診も続けている団体も中にはあったりして、文京区としてはいわゆる国の基準に合わせると、出っ張っているところですか。これ、どういうものがあって、それが現在医学的な見地からはどういう評価をされているのかをお伺いしたいのが2番目です。

それから、3番目が83ページのところで、それが特にこの真ん中の表の年齢別で見た死亡原因の状況です。これ、以前からも見させていただいていまして、特に私これ最初見たとき、自殺の要因が特に10代から30代まで非常に多いというところに衝撃を受けたのですが、同時に、今日見ると、老衰が80代で3位になって90代で1位になるのですよね。

お伺いしたいのが、老衰、がんならがんで対策しなければ駄目だとか、心疾患だったら心疾患でもイメージ分かるのですが、老衰が一番ということは、老衰には対策があるのか。でも、まあ、いろいろやったけれども、年だからもう老衰が1位になっているのは努力の結果として老衰だから、これはこんなものと諦めるべきなのか。

自分が年を取ってきて身近に考えるのですけれども、死亡原因1番の老衰を対策も含めてどう理解するのが適切なのかを教えてくださいと思います。

以上です。

**○矢内保健衛生部長** 貴重なご意見をいただきありがとうございます。

健康寿命の延伸については、総合戦略の中で、言葉、あるいは目標として掲げていることはないのでけれども、文京区における健康施策については、健康寿命の延伸を最も大きな目標にして取組を進めております。

東京都の場合には、23区及び多摩地域での健康寿命の算定については、東京保健所長会方式という一定きちんと学会での発表等を経たきちんとした指標を用いて、算定をしているところです。

2番目のがん対策、がん検診についてですけれども、区では国が進めている科学的根拠の明ら

かな、死亡率減少効果が明確にされている五つのがん検診のみを実施しておりまして、飛び出しているところ、出っ張っているところはございません。

東京都におきましては、がん検診の受診率及びがん検診の制度管理を非常に重視しておりまして、こういったがん検診を実施しているのか、どのように受診率の向上に取り組んでいるのか、制度管理はどのように行っているのかという調査を行っておりまして、国指針に合わないがん検診を実施している場合には問題があるという指摘を受けて、あまりやっているところはないのではないかと思います。

がん検診という名目で様々な検診が実施されておりますけれども、区としては、あくまでも行政として実施する対策型検診として、国が進めるがん検診を実施しているという考え方でございます。

三つ目の老衰でございますけれども、これは高齢化進む中で、老衰で亡くなる方が多くなっていくのは、これはもう致し方がないとは考えております。これは死亡診断書に老衰と書いてあればもう老衰になりますので、どうしても高齢化が進んで、在宅療養を続ける中で亡くなる方がいた場合には、恐らく死亡の主要死因としては老衰、その原因としてはという形で書き加えられるかと思いますけれども、現代社会の中では致し方がないと考えております。

ただ、高齢者の死亡原因として非常に重要なのが、ここに肺炎と記載がございます。高齢者の肺炎。肺炎で死亡するのは、ほぼ100%高齢者でございますので、これを肺炎対策を進めることは区としては非常に重要な課題だと考えておりまして。

例えば、嚥下機能の確保であったり、あるいは肺炎を引き起こす感染症の予防、そういったこと。あるいは、自分の口からきちんと食べるということで、歯を、8020とよく言いますけれども、自分の歯でかんで食事をするといった取組を進めていくことが重要だと考えております。

**○社会長** どうもありがとうございます。よく分かりました。

皆さん、その他いかがでしょうか。よろしいですか。まだ少し時間はありますけれども。

それでは、高岡委員、お願いします。

**○高岡委員** 高岡です。

自宅予防ですとか、健康づくりですとか、がん対策ですとか。いろいろな取組が行われているのですけれども、これが全ての区民に分かりやすく伝えられているかという点、まだ工夫の余地があると思ひまして、特に、聞こえない人に対して分かりやすい文章、それから手話でお知らせしていただくことがどうしても必要なのです。

文京区では65歳から5年ごとに認知症の検査が受けられるのです。でも、ほとんどの高齢のろう者の場合、受けていない。それは通知が文章で来るからです。文章を読んでも分からないと、来て、そのまま捨ててしまう。

だから、そういう検査をやっていることをホームページとかYouTubeにアップして、そのQRコードをお知らせいただくとかです。手話で情報を得ることをそれぞれの課でお願いし

たいと思うのです。

先ほどの新しい感染症が広がっていることもあまり詳しく皆さんご存じないと思うのです。手話でお知らせしていくことを大事にしたいので、ぜひ手話言語条例もできていますので、ぜひご検討お願いしたいと思います。

以上です。

○**社会長** では、事務局いかがですか。

○**矢内保健衛生部長** 全ての方に分かりやすく情報をお伝えすることはとても重要だと思って考えております。現時点では、手話で情報提供するというお話があった方法は、私どもでは取ってはおりませんが、ホームページ、SNSでの情報提供をまずは分かりやすい文章でお伝えするということ、耳の聞こえない方にも分かりやすいものでお伝えすることを心がけていきたいと考えております。

手話についての情報提供については、区のそのほかの情報と同じように、今後の進めていく課題だと考えておりますので、ご理解をいただければと考えております。

よろしくお願いいたします。

○**高岡委員** ありがとうございます。

手話で情報を伝えるのは、なかなか通訳者の確保とか、予算とか大変だと思うのですが、新しい感染症の問題とかは多分東京都でつくっているのではないかなと思うのです。東京都は自分のところで発信する全ての動画ですとか、テレビ番組まで、全部手話通訳がついているのです。だから、そういうものをご紹介していただく形でもいいかなと思うので、少しでもできるところからお願いしたいと思います。

以上です。

○**矢内保健衛生部長** ありがとうございます。

東京都もたくさんYouTubeで感染症情報の配信をして、区でもその情報をホームページ等に記載しておりますので、今後十分調べて手話でお伝えできるようなものも掲載していきたいと考えております。

ありがとうございました。

○**社会長** それでは、栗原委員、お願いします。

○**栗原委員** 公募委員の栗原です。

課題26の区民の主体的な健康づくりで、104番、食育の普及です。食育に関して、私、野菜の一部にアレルギーがありまして、この文京区においては、食育とともに食のアレルギーについてどのような認識を持っているかお聞きしたいです。

○**社会長** 事務局。

○**大武健康推進課長** 文京区は今、食育のほうに力を入れて、「Happy Vegetable大作戦」という名称で、ハッピーベジタブルフェスタを中心に野菜を取ることの重要性等の周

知啓発に努めているところでございます。

その中で野菜のアレルギーについては、まだなかなか私どもも研究が足りない部分がございますので、そこについてはより高くアンテナを立てながら、分かりやすく発信できるよう、研究はしていきたいと考えています。

ご意見ありがとうございます。

○栗原委員 ありがとうございます。よく分かりました。ありがとうございます。

以上です。

○辻会長 その他いかがでしょうか。

それでは、柴崎委員。

○柴崎委員 民生委員の柴崎です。

がん対策のところで、とても言いにくいのですが、がんにかかってしまって、結構末期がんになっていらっしゃる方がいらっしゃるのです。文京区の中には緩和ケアの病棟がほとんどないのです。その病棟があると、生きている間、死に直面するまで、とても心穏やかに過ごせらしいと聞いていますので。その緩和ケアを導入するというお気持ちはございますでしょうか。

○辻会長 事務局、いかがでしょうか。

○矢内保健衛生部長 区として、がんの緩和ケア病棟をつくるとか、あるいは病院に働きかけることは現在行っておりません。

ただ、がんの緩和ケアについては、がんの末期の方の日常生活を支えるためには非常に重要な手段となっておりますので、がんの緩和ケア病棟のある病院のリスト、あるいはそういったがんの緩和ケアに関する情報については、東京都のがんポータルサイトとも連携して、情報提供を行っていきたいと考えております。

○柴崎委員 分かりました。

できれば大学病院さんも今経営が大変だからでしょうけれども、文京区のほうでもそういうところに力を入れてくれるように後押しをしていただけるとありがたいなと思います。

よろしくお願いいたします。

○辻会長 その他、いかがでしょうか。

よろしいですか。大体、少し早いですけれども、一通り意見終わりましたので、今日はここまですとしたいと思います。

それでは、次回の日程等につきまして、事務局から説明をお願いします。

○川崎企画課長 事務局の企画課長でございます。

本日も委員の皆様、熱心なご議論をいただきまして、誠にありがとうございました。

それでは、事務連絡を申し上げます。

まず、次回の予定でございますが、明日でございます。明日の11月6日、木曜日に全体会を開催いたします。時間は本日と同じく午後6時半から2時間程度を予定しております。場所です

が、こちらの隣のシビックセンター24階第一委員会室でございます。

内容でございますが、行財政の運営、区政全般に関わるのところと。あと、これまでのそれぞれの部会の振り返りを予定しております。

お持ちいただきたいものでございますけれども、本日と同じくこちらのオレンジ色の総合戦略の冊子と、また、シートでございますが、こちら戦略点検シートの分厚いものと、もう一つ、薄いもので行財政運営点検シートがあったかと存じます。そちらのほうをお持ちいただければと思います。

本協議会で審議できなかったことですか、このほかの部会に関する主要課題についてご意見等がある場合につきましては、先日お渡しいたしました意見記入用紙か、またはそちらに書いているメールアドレス等どちらでも結構です。こちらに11月12日、水曜日まで事務局宛てにお送りいただきたいと思います。

お寄せいただいたご意見ですけれども、所管課にお伝えをするとともに、今後の参考とさせていただきます。また、いただいたご意見は、本協議会の会議資料として公開の対象となりますので、ご了承をお願いいたします。

配付資料についてはお持ち帰りをお願いいたします。

ご参加いただいた本協議会の会議録でございますが、委員の皆様には内容を後日ご確認ください。後日メールまたは郵送でお送りいたしますので、ご確認をお願いします。委員の皆様の内容のご確認が終わり次第、区ホームページ等で公開を予定しております。

ご説明は以上でございます。

**○社会長** その他、委員の皆様から何かありますか。

明日もまた皆さんに来ていただいて、お互いに大変ですけれども、頑張りたいと思います。皆さんもよろしくお願いします。

それでは、これをもちまして本日の区民協議会は閉会いたします。どうもありがとうございました。